

Title	大隈重信 関 武富時敏著 豫算詳解 ; 慶應義塾大學部教授堀江一著 最新銀行論 第六版
Sub Title	
Author	星野, 勉三
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.2 (1909. 3) ,p.249(115)- 250(116)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著批評
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090301-0115">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090301-0115</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

114 事實を知悉せざるにわらず、否、充分に之を知りながら尙ほ平然として米國政府の誠意と同國民の明識に依頼する所、益々其君子の特長を示すなり。夫子の道至大なり。世は果して之を容るゝことを得や如何、外相をして我が道非なるかの歡聲を發せしむるの日なきや否や。

新 著 批 評

星野 勉 三

大隅重信 閱  
武富時敏 著

豫 算 詳 解

115 我國語に於て豫算に關する著書は決して多しとせず其見るに足る可きものは先きには、ヘツケル氏の豫算論を日本銀行員吉井一三氏の譯するあり又法學士工藤重義氏の豫算決算に關する著述ありたる位なりしが昨年十二月帝國議會の開會に際して財政通の間ある武富時敏氏は豫算詳解なる一書を公にせり此好著は大隈伯の關する所なりと云ふ余輩は既に前號の新刊書批評欄に於て大隈伯序文の採るに足らざる所以を述べしが今又武富氏の著に冠するに大隈伯閣の名を以てするが如きは却て此好著をして或は駄法螺を權列せるに過ぎざる可しとの疑を起こさしむることなき哉頗る懸念に堪へ

ざるなり。

此書は編を分つこと四にして

- 第一編 豫算の要義
- 第二編 歳入歳出の研究
- 第三編 特殊事項の研究
- 第四編 豫算決算の對照

となし第一編に於ては我豫算に關する重要問題に付て簡單なる説明を下し併せて豫算と憲法及び會計法との關係を説き第二編に於ては歳入歳出の重要なる項目に付て詳細なる説明を試み又第三編に於ては豫算に關する重要なる時事問題に付て委細の解説を加へ第四編に於ては廿四年度より卅九年度に至る迄の豫算と決算とを數字的に對照せり本書は右の内容に對して豫算詳解の名を付するものにして我國の豫算を詳細に解説するを目的とし敢て學術的の議論を試むるに非ず然れども能く事實を網羅し改行發行の財政に關する報告書の如きは盡く之を分類編入せり故に單に豫算詳解と云ふよりは却て日本豫算詳解と命名する方適當ならん。

夫れ豫算に關する所謂學問的議論の如きは之を西洋の著書に就て見れば材料豊富にして苟も外國語を解する者は故らに日本語にて此の如き書あることを希望せざる可し然れども吾人の渴望せる所は日本語にて日本の財政事情を詳解せる著書の出でんことなり而して武富氏の著の如きは最もよく此要求に適するものと云ふ可し而して紙數も殆ど六百頁に上り解釋頗る詳密にして特に國表に頁を加へて了解に便にせり故に余輩は近來の好著として之を歡迎するに躊躇せざるなり。

慶應義塾大學部教授 堀江一著

最新銀行論 第六版

堀江氏の銀行論は第一版を卅七年に發行し爾來著書の多忙なりし爲め改版の運に至らざりしが本年六月第六版を發行するに當たり大に増補訂正を加へたり。

著者は中央銀行を中心として立論する方法を採

り先づ第一に銀行に關する重要觀念を説き次に銀行業務を詳説し然る後米英獨佛の中央銀行に關する説明を加へたり尙ほ進んで銀行の資本金積立金並に組織及び銀行の監督検査を説き次には我國の銀行制度に付て詳細の説明を試みたり而して後金融の特殊機關として勸業銀行勸業銀行興業銀行貯蓄銀行信託會社等の説明を加へ最後に外國爲替及び恐慌の説明を附加せり。

本書第六版は五百頁弱にして著者は其編纂に當り常に之を教科書となすことを眼中に置きしかば紙數も前版に比して多く増加せず又参考書の如きも學生の實際通讀す可き底のもののみを掲げたり而して第六版が舊版と異なる所は恐慌の實例を削除し又最近出版の洋書類を參照して所謂 *note data* となせるにあり而して此書の價値の如きは世既に定評あるが故に茲に之を述ぶるの要を見ず故に此の如きは唯に好良の教科書として學生の必携に價するのみならず又實際家の如きも之によりて値に得る所ある可きを信するなり。

雜 錄

月の引力と人體の關係  
並に七の數に就て

清水靜文

吾々人間は、此五尺の體軀を生理的に、解剖的に、將た心理的に、解釋した丈では、充分分かるものでない。天外幾億萬里の外にある、日月星辰の及ぼす熱、光線、引力等一切の影響をも、數的に、量的に明めねばならぬ。此等の關係迄が、悉く知れた曉でなければ、人間なるもの、解釋が出来たとは云へぬ。潮汐の干満が大陰と太陽の引力より起ることは、今更言ふ迄もない。大地震及火山の大噴火が、月の引力の最も強い時、即ち大陰曆の朔日か十五日に起ることの多いのも、其筋の學者の稱へてをるところである。斯くの如く偉大なる影響を地球上に及ぼす大陰が、人體に何等の關係

もないとは何としても考へられぬ。地球の電氣は僅か三寸か五寸の鐵の棒に感應して磁石力を生ずるではないか。五尺の人體に月の引力が變化を起さしむると云ふても、強ち空言漫語ではあるまい。上げ潮の時に怪我をすれば、血液が多く出るとは、昔から言ひ傳へてをる。殊に婦人の血行を支配してをるのが、月であることは事實である。男性よりも特に女性を多く支配するのは、何故であるかと云ふに、女子には兒を産むと云ふ生理的大變動がある。身體内に大變動のある時は外部よりの刺劇を感ずることが一層甚しい。草立、草枯に病氣が起ることの多いのも此爲である。月が地球を離れてから五千四百萬年、生物の發顯してから凡そ四千八百萬年、月は此長年月の間、常に生物に引力作用を及ぼして、血行に抑揚を生じ、其影響は遺傳となり、習慣となり、天性に變じたのであらうと考へられる。月が潮汐の干満に關係あるが如く、血液の循環に關係あるものとすれば、血液は營養作用を掌つてをるから、體質に其作用